

# 市町村合併と学校図書館

岡 部 廣

## 1、はじめに

今から約3年前、本校のある旧三光村を含む旧下毛郡4町村は隣の旧中津市に吸収合併され新しい中津市として新発足しました。これに伴い、私の勤務する三光中学校も三光村唯一の中学校から中津市立の10校の中学校のひとつとして新たな歴史を刻み始めました。

学校図書館とこれを取り巻く環境面でも、この間、大きな変化が生じてきました。この変化を大きく学校図書館に対する直接的な影響、そこで働く司書に対する影響、教職員の意識の変化の問題の3つに分けてこれから考察していきたいと思います。

## 2、合併が学校図書館に及ぼす直接的影響

合併前の三光中学校図書館の図書費は旧中津市の中学校図書費に比べて多く、私費にも恵まれていました。それが、合併後2年目から急速に減らされ、3年目の今年は公費以外にも私費も6割程減らされ、全体で三光村時代の約半分以下にまで減らされてしまいました。また、今まで図書費以外の公費で購入していた新聞や掲示資料もカットされ、事務用品や消耗品の予算も大幅に削減されました。

その結果、雑誌の購入が公費ではできなくなり、私費も大きく減少したので10誌近く購入していたものを2, 3誌にまで減らしました。また、今年度から、教師用図書やPTA会員向けの図書もほとんど受入れができなくなりました。生徒用図書についても、特に調べ学習用図書の購入については、今までシリーズで購入していたものを、その中の、1, 2冊に絞り込んだりして購入しています。また、最も利用者の多い小説類の購入にあたっては、今までのような冒険ができなくなりました。この本は面白そうだが、果たしてこの中学生が読んでくれるかどうか分からないといった本や、この本はあまり読まれないだろうが、学校図書館には必要なものなのだとした本の購入に、今まで以上に慎重になりました。

このことはすでに利用者にも大きな影響を及ぼしており、読書は苦手だが雑誌を見るために図書館を利用していた生徒の図書館離れを引き起こしています。今後、読書好きの生徒にも大きな影響を与え、生徒の図書館離れが起きることを心配しています。

また、あと数年すれば、購入する本より廃棄する本の方がはるかに上回り、蔵書の大幅な減少が避けられそうにありません。

## 3、司書に対する影響

合併は学校図書館で働く司書にも大きな影響を及ぼしました。新中津市には現在2人の嘱託の学校司書がいますが、この2人は旧町村から引き継いだもので、勤務形態もほとんどそのままか、悪化しています。しかも、同じ教育委員会でも、ひとりには学校教育課、もうひとりには社会教育課と所属が違い、また、中学校一校の専任と小中学校三校の兼任というように、同じ学校司書でも仕事内容は全く違っています。それにひとりの司書には市外への出張は認められず、県の司書部会や研修会への参加はすべて年休で自費負担での参加になっています。もう一人の

嘱託司書は公費での出張は認められているものの年間の旅費は以前の30%程度まで減らされており、かなりの部分、自己負担を強いられています。それに給与は以前の水準を維持したものの（その後、全職員5%カット）勤務時間や勤務日数が大幅に増えたために実質は年間1か月分の労働強化になってしまいました。また、学校全体の予算が削られたために事務用品や用紙類、コピーなどの自己負担も増えており、これらも金額に直すと相当な負担増と言わざるをえません。このように合併後、司書に対する負担は確実に増大してきています。

#### 4、教職員の意識の変化

今まで述べた中でこれから触れることが一番厄介で解決しにくいことかもしれません。合併後、数多くの教職員が旧中津市から転勤してきました。学校図書館にとってはこのことが大きな問題となっています。合併前、旧中津市は学校図書館に対してはあまり力を入れておらず、教育委員会も教職員もこのことはあまり考えていないようでした。一部の熱心な市民の方たちがこの問題に取り組み、読み聞かせの傍ら、学校図書館の充実運動にとりくんでいるにすぎませんでした。（中津市に限らず大分県下の大部分のところが似たり寄ったりですが）したがって旧中津市の教職員は学校図書館のことにはほとんど無関心で興味も持っていませんでした。このような教職員が、今までになく大量にやってきて、無意識のうちに学校図書館を無視した教育をやるようになってしまったのです。また、旧中津市による吸収合併のため学校現場でも何でも旧中津市のやり方に合わせてしまったのです。中には学校図書館を邪魔者扱いする教員もいました。しかも、旧中津市は大分県下でも一番コンピュータ教育に熱心で設備も整っているところです。教員はパソコンとインターネットがあれば調べ学習には十分で学校図書館の古い本は使い物にならないと思いついでいるのです。また、朝の読書に使う本は家庭から持ってくるのが当然とも考えていました。このような状況下で生徒に影響を及ぼさないはずはありません。最近では読書量が落ち込んできており、無断持ち出しや汚損する本もふえてきたように思います。もちろん、学校図書館や司書のことを真剣に考え、読書教育に熱心に取り組んでいる教職員も中にはいるのですが。

#### 4、おわりに

今年度になってから、学校図書館を取り巻く状況にも変化の兆しが見え始めました。これまでの生徒図書委員会の活動や、学校図書館の広報活動の成果が出てきたのか、学校図書館に興味、関心を持つ教職員も増えてきました。依然として生徒の読書量の減少傾向は続いているものの、図書館を使った調べ学習に取り組む先生も出てきました。しかし、この広い新中津市の中で、わずかふたりの司書で教職員の意識を変えていくことは大変なことです。特に中学校では受験と部活と生徒指導に教職員の目が向けられており、読書や図書館教育については二の次になっています。しかし、ほとんどの学校で何らかの形で朝の読書が取り入れられていたり、本校の生徒の作った本の紹介ポスターを借りていって、それをお手本に、そこの生徒にポスターを作らせる他校の先生もおり、これらを手がかりに図書館教育の輪を新中津市にも広げていきたいと思っています。

（おかべ ひろし 中津市立三光中学校 司書）